



Tanabe East Rotary Club in 2018-19

2018-19年度RI会長：ハリー・アン

第2640地区ガバナー：樫畑 直尚

田辺東ロータリークラブ

創立：昭和49年5月15日

会長：武田 静也

幹事：野村 憲司



インスピレーションになるう

例会場/事務所：田辺市下屋敷町81-10

きのくに信用金庫田辺支店3F

Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008

http://tanabe-east-rc.com/

E-mail info@tanabe-east-rc.com

例会：毎週水曜日 12:30～

ビジターフィー ¥2,000

○会長報告 会長 武田 静也



■本日のお客様は、和歌山県立田辺高等学校 教諭 和田充可（わだ みつよし）様です。後ほど宜しくお願ひ致します。

○幹事報告 幹事 野村 憲司



◎東日観光株式会社より

「2019年 国際ロータリー年次大会(ハンブルグ大会) 参加旅行募集案内送付のご案内」

◎国際ロータリー日本事務局より

「ロータリー財団月間 リソースのご案内」

「オンラインショップ/Rotary Shopのご案内」

◎樫畑ガバナー事務所より

「ガバナー月信11月号」

「2018-2019国際ロータリー第2640地区 地区大会 ご参加のお礼」

■回覧

◎週報「串本RC」

◎公益財団法人 天神崎の自然を大切にする会より

紀伊民報紙面「第27回 子どもふるさと絵画展」広告

(田辺東RC協賛)

○本日の唱歌

「君が代」 「紅葉 (もみじ)」

唱歌委員 橋 博 君



○ゲスト・ビジター

和歌山県立田辺高等学校

教諭 和田 充可（わだ みつよし）様



○出席報告

会員数 45名 義務免除 4名 本日の欠席者 6名

本日出席率 85.37% 10月24日の修正出席率 92.5%

○委員会報告

◇ゴルフ部会

暫定会長代理モドキ

後藤 信博



ご無沙汰しておりましたが、クラブのゴルフ部会の忘年ゴルフコンペを開催いたします。また、夜にはゴルフ部会以外の会員さんも出席していただいて、忘年会を行ないます。多数のご参加お願いいたします。

ゴルフ部会の会長と幹事が、今期はクラブの会長と幹事です。そこで私が暫定会長代理を仰せつかりました。不手際もあるかと思いますが、ご容赦くださいませ。

日 時：11月25日(日) 場所：白浜ゴルフ倶楽部

忘年会：この葉 2F “地” クエ

四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか

〇にこにこ報告 (敬称略)

◇和歌山県立田辺高等学校

教諭：和田充可 (わだ みつよし) 様をお迎えして。
愛須勝章、緒方雅男、木村壽一、畔田実、坂本正人、
武田静也、竹中悟、西谷貞彦、野村憲司、本田耕二、
橋本隆、山本亘、吉田和枝、吉本正美、早稲田清司

◇サンパツしました。どうでしょう？ 森本副会長

◇早退お詫びします。 片井貢

◇結婚記念日 岡本博、浦地章
◎特に何もありません。 後藤信博

◎感謝しかありません、と、言う事で。 谷本司

◇奥様誕生日 岩崎泰人、竹村英一、山本亘、渡口眞二

◇本人誕生日 丸山勇人
◎憧れの70才になりました。古希を迎えて
「あ〜めでたい、めでたい!!」 佐田一三

◎見渡せば 花も紅葉も なかりけり
浦の苫屋の 秋の夕暮れ 定家

60歳、或いは65歳が通常の定年とされています。
間違っても70歳過ぎまで働くのは如何にも世情に
劣ります。

十有五にして学に志した人も、七十になれば己の
欲するところに従えども、のりを超えず。とか。

不肖 上原

未だ、わびもさびも知らず、ひとえにクラブを騒
がせています。なおしばらくのご支援のほどをお
願い申し上げます。 上原俊宏

◎ハヤ!マジ!70才! 小山實

☆皆様たくさんニコニコありがとうございました。



〇本日のプログラム

和歌山県立田辺高等学校
SGH推進室/地域連携担当
教諭 和田 充可 様
(わだ みつよし)



〔地元と連携した取り組みについて〕

本校では、「温郷知新 ～地元で学び、世界を舞台
に活躍できる人材の育成～」をテーマに、地元への理
解を深め愛着と誇りを持った人材の育成を目標に、総
合的な学習の時間をはじめ教科や課外活動などに積極
的に地域学習を取り入れています。

地元へ飛び出すフィールドワークをはじめ、発表を
繰り返し行い、地元を離れた時に一人ひとりが地元のP
R大使になって日本全国そして世界に羽ばたいて欲しい
との願いで取り組んでいます。そのような活動の中で、
生徒有志から「地元のことをより深く知り考えたい」、
「地元を通じた国際交流をしたい」という意見が多く
寄せられ、“Think Locally, Act Globally”を活動指
針とし、学校を飛び出し市役所や大学や企業を連携し
たSEEKERと呼ばれる組織を一昨年結成し地元を始め国
内外で活躍しています。

また昨年の6月と今年の7月に、「T-Cafe」というイ
ベントをSEEKER主催で行いました。田辺市国際交流セ
ンターの協力の下、田辺に在住する外国人と地元住民

を結ぶために高校生ができることは何かを考え、地元
の食材を用いた、「みかんケーキ」や「うめどりパー
ガー」の調理交流、昼からは言葉の壁を越えたゲーム
や体験活動などで大いに盛り上がり多文化共生社会の
実現に向けた第一歩になりました。

このT-Cafeをはじめ、地域に飛び出している調査や、
探究活動の成果発表のための各種大会への参加などを
積極的に展開しています。決して派手な活動ではあり
ませんが、地域に飛び出している生徒の活動への御協力
と御理解を賜りますとともに、郷土を思う生徒の成長
と活躍に期待して頂きたいと思ひます。

田辺高校の概要

- 全日制普通科
自然科学科(併設中学校からの内部進学)
- 生徒数 960名(高校)
学年 8クラス(普通科 6・自然科学科 2)



四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか

加盟・認定の経緯

(2014～ スーパーグローバルハイスクール アソシエイト認定)

普段の活動自体が、ユネスコスクールの理念に一致している → ESD (持続可能な開発のための教育) ・ SDGs (持続可能な開発目標)

□2015年 6月 一次申請 → (大学の専門家による内容修正指示)

9月 県教育委員会に正式申請 (二次申請)

□2015年10月 文部科学省受理 → パリのユネスコ本部に送付

□2017年 3月14日付ユネスコ本部より認定連絡

□2017年 5月 文部科学省より正式連絡・書類受領



和歌山県立田辺高等学校 総合的な学習の時間概要

温郷知新～地元で学び、世界を舞台に活躍できる人材の育成～

☆郷土への愛着と誇りを高め、異なる文化や価値観を持つ集団の中で認められる日本人としてのアイデンティティを確立し、持続可能な社会づくりに取り組む態度を育む。

温郷知新
 } ふるさとをたずね
 故郷を温め
 } あたらしきをしる
 新しさを知る

「ローカルな知」の認識 (第1学年)
 地元を向け、良さや強み・課題を知り、課題解決の方策を探る

「インターローカル」～「ローカルな知」の出会い・つながり (第2学年)
 国内外の「ローカルな知」に出会い、グローバルな課題解決に向け方策を協働して探る

「新たな知」の創造と発信 (第3学年)
 インターローカルから「新たな知」を創造し世界に発信する

直面する課題解決のためには 地元の強みを活かすには

地方創生

・世界遺産・世界農業遺産・インバウンド・世代を超えた交流・観光資源・交流人口

環境保全

・ジオパーク・地産地消エネルギー・ナショナルトラスト

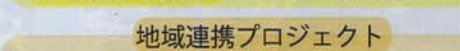
防災減災

・まちづくり・地域づくり・地元との協業

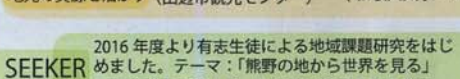
地元の課題・強みに迫る



国際的な交流と探究



地域連携プロジェクト



SEEKER 2016年度より有志生徒による地域課題研究をはじめました。テーマ:「熊野の地から世界を見る」国際会議や各種大会、生徒海外派遣で成果普及

育む力

- ☆郷土への愛着と誇りを高め、異なる文化や価値観を持つ集団の中で認められる日本人としてのアイデンティティを確立し、持続可能な社会づくりに取り組む態度を育む。
- ☆対話力・交渉力・企画力を高め、他者と協働して課題解決に取り組む力を育む。
- ☆協働研究により、多様な価値観・思考に接し俯瞰的視点・複眼的視点を育む。
- ☆持続可能な社会づくりに貢献できる新たな知を創造し発信する力を育む。

ユネスコスクール

2017年度加盟。持続可能な開発のための教育(ESD)の理念を学校教育活動に積極的に取り入れ活動していきます。

'Think locally, act globally'

四つのテスト: 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

SEEKER

和歌山県立田辺高等学校 生徒の自主的な学びについて

“Think locally, Act globally”



*UNESCO Associated School(2017～)

Suggestion
Exploration
Exaltation
K→Cooperation
Education
Revitalization

▶「熊野の地から世界を見つめる」をテーマに、国籍や宗教などにとらわれない世界に開かれた地域の在り方を考える。

▶人口減少を迎えた地域における、多文化共生と持続可能な社会づくりについて、産官学協働で取り組み、成果を「田辺モデル」として提唱する。

「熊野の地から世界を見つめる」



地方創生

キーワード

- ・観光・世界遺産・インバウンド・交流人口
- ・観光資源を通じた在留外国人との交流
- ・多文化共生社会など



直面する課題解決のためには

地元の強みを活かすには

SEEKERの活動

熊野古道インバウンド研究
道普請事業



何が魅力なのか？
なぜ国籍や宗教を問わず熊野の地を訪れるのか？
満足しているのか？

カナダ・ドイツへの
研修



2016年9月にカナダ・トロント、
2017/18年3月ドイツ・コンスタンツにて、観光や移民についてのフィールドワークを実施。多文化共生社会の先進例を学ぶ。

トルコへの
ビデオメッセージ

トルコ、ドイツなどのとともに2030年の地域社会の課題の解決を目的に、国際協働プロジェクト学習を進めてきました。

Think locally

T-Café

Tanabe de Tomodachi wo Tsukuro

田辺に住む外国人と地元を結ぶイベント

Act globally



Revitalization
of Our Local Area

料理やゲームに国境や年齢は関係ない！
高校生の力で、田辺に住む外国人と
地元を結ぶ。

多文化共生社会の実現が、
地域の活性化につながる！



〇編集後記 ひしのみ11-7

誰であっただろうか、このような歌を詠う人がいた。

寂しさは その色としも なかりけり 槇立つ山の 秋の夕暮れ
寂蓮

一日千秋のごとく職業、奉仕活動等に日々精進することがロータリーの信条だと思っていた。だが、いつの間にかそれが心情となってしまった。ヒトもそろそろ日々の活動を結実に変え、来る春に再生を果たす秋（とき）が、槇立つ季節の夕暮れ時が訪れる頃になってきた。ちょうど、日々花を咲かせる庭の赤いニチニチソウもやがて冬を迎え花咲く春を夢見るように。



四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか